

海外派遣留学生
留学報告書

タイ・モンクット王ラカバン工科大学

学部学科・研究科専攻	教養学部芸術学科		留学時学年	1 年
留 学 先	国	タイ	大学/機関	モンクット王ラカバン工科大学
期 間	2025 年 2 月 3 日～2025 年 2 月 12 日			
	短期		計 10 日間	

[1] 参加した語学コースの時間数／科目名（受講科目・複数可）

- ・授業時間数：
- ・科 目 名：

時 間	月	火	水	木	金	土	日

[2] 授業内容について教えてください。

（クラス人数、国籍割合、担当の先生、授業方法、使用教材等）

なし

[3] 課外活動・研修旅行・余暇の過ごし方について教えてください。

KMITL の学生が立てた計画に沿って行動し、市場や寺院、ショッピングモールなどを訪れました。観光地だけでなく、ローカルな場所にも行き、日常生活の一部を体験できたのが貴重でした。

特に交通機関では、線路の上を歩いたり、駅ではない場所で電車が止まったりする光景に驚きました。また、市場では屋台のような店が賑わい、バイクの多さも印象的でした。日本とは異なる文化に触れることで、新たな視点を得ることができました。

こうした体験を通じて、単なる観光ではなく、タイの暮らしを深く理解する機会となり、非常に有意義な時間を過ごせました。

[4] 派遣先でよく使った施設について教えてください。（図書館、学生会館、スポーツ施設等）

なし

[5] 宿舎（寮やホームステイ）での生活について教えてください。

部屋：1部屋2人で使用

様子：KMITL の寮は広く清潔で、シングルベッド 2 台、机 2 つ、ロッカー 2 つ、冷蔵庫も備えられており、快適に過ごせました。朝食は近くのコンビニで、夕食は市場で購入し、KMITL の学生と一緒に食べることが多かったです。滞在先の学校の教室も広く、交流しやすい環境でした。最初は寝袋での寝心地に違和感がありましたが、次第に慣れていきました。朝食・夕食ともに学校で食べることができ、KMITL の学生との交流が深まりました。海外で親元を離れての生活には困難もありましたが、周囲の助けを借りて乗り越えることができました。この経験を通して、日本の常識が通じない環境での適応力が身につき、価値観が広がる貴重な体験となりました。

[6] 留学中に楽しかったこと、苦労したことを教えてください。

- **楽しかったこと：**文化交流プログラムが特に印象に残りました。実際にダンスや装飾、食べ物を体験することで、相手の文化への理解が深まり、視野も広がりました。3月4日から10日までの夜は、KMITL の学生と教室で過ごし、より密な交流ができました。その中で、タイの人は早起きで、シャワーを1日2回浴びることが多いといった、調べてもわからなかった生活習慣を知ることができました。また、タイには手を揃えてお礼を言う「ワイ」という文化があることや、食事前の挨拶も一部の地域では使われるものの、一般的ではないことも学びました。こうした直接の交流を通じて、書籍やインターネットでは得られない発見があり、とても貴重な経験となりました。
- **苦労したこと：**タイで苦労したことは主に2つありました。1つ目は水環境です。シャワーは冷たく、日本のようなお風呂がなく、水も硬水のため口に合いませんでした。しかし、冷たいシャワーには慣れ、飲料水は軟水のブランドを選ぶことで対処できました。2つ目は気候です。日本より暑く、虫も多いため、温度調節が難しかったです。これも冷感グッズやタイの虫除けを活用し、徐々に慣れていきました。こうした経験を通じて、異文化を受け入れ、適応することの大切さを実感しました。文化が違うからこそ、工夫しながら理解を深めていくことが重要だと学びました。

[7] 留学の成果について教えてください

- 1) **語学力の向上：**留学前は時間がなく、タイ語の勉強は挨拶程度でした。しかし、タイの学生と関わる中で、少しずつ単語を使いながら会話ができるようになりました。また、タイ語が伝わらない場面では英語を使い、伝えたいことを工夫して表現することで、英語のコミュニケーション力も向上しました。さらに、語学力の向上だけでなく、言葉を学ぶ楽しさを実感し、語学に対する意欲も高まりました。実際に使いながら学ぶことで、机の上の勉強では得られない貴重な経験ができたと感じています。
- 2) **専門知識の向上：**なし
- 3) **自己成長など：**タイの学生向けに日本文化を紹介するプログラムの計画をまとめ役として担当しました。言語の壁がある中で、どのように興味を引くかをメンバーと議論しながら進めました。本番では KMITL の学生に助けをもらい、自分の至らなさを実感しましたが、その過程でリーダーシップや計画力が向上したと考えています。また、言語が異なる相手に伝える工夫も学びました。さらに、留学を通じて対人能力や適応力も磨かれ、多様な状況に柔軟に対応できる力が身についたと感じています。

[8] 来年度に留学を希望する学生へのアドバイスをお願いします！

留学中は、日本人同士だけでなく、現地の人と積極的に関わることで、その国の文化に直接触れることができます。さらに、言語の上達にもつながり、より深い学びが得られます。自己成長を目指すなら、自ら交流の機会を作ることが大切です。また、留学前にその国の文化を調べておくと、現地での理解が深まり、スムーズに適応できます。異なる文化を受け入れ、理解しようとする姿勢が、充実した留学生活につながると実感しました。

[9] 留学に関する費用の総額について内訳を教えてください。

項目※詳しく記入して下さい	金額（当時の日本円）
渡航費（旅行会社に支払った経費）	2万円
授業料以外の諸経費（教材費・課外活動・保険料等）	22万円
私生活における諸経費（食費・交通費・洗濯費等）	2万円
現地からの奨学金がある場合	0
お土産代や個人的な買い物	2万円
その他（ ）	0
留学に関する費用の総額	26万



